

貴重品の管理

How to manage valuables

小林 梨乃¹⁾
指導教員 谷上 欣也¹⁾

1) サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 プロダクトデザイン研究室

キーワード：貴重品, 災害, 鞆

1. 研究目的

貴重品の紛失や忘れ物で困った経験から、この研究をはじめた。失くしものや忘れ物をすると自分自身が困るだけではなく、多くの人に迷惑を掛けてしまう可能性がある。また、貴重品を常に身に着けて管理することができれば災害が起きても貴重品を持っているという安心感が生まれると考えられる。本研究では貴重品を邪魔にならず、常に携帯するための方法を探る。

2. 調査内容

鞆の中身や貴重品について、10代から50代の男女約70人に調査を行った。その結果、多くの人が持ち歩く貴重品は、財布、携帯電話（スマートフォン）、鍵、定期券であることがわかった。

また、年齢よりも男女で管理の仕方に大きく違いがあることがみられた。男性は服のポケットで管理するのに対して、女性は服にポケットがないことが多いため、鞆で管理することが多い。

また、貴重品をコンパクトに持ち運ぶためのフラグメントケースやマイクロミニバッグなどの最新の鞆についても調査を行った結果、持ち運びやすさにメリットがあったものの取り出しやすさに問題があることがわかった。[1] [2]

3. コンセプト

コンセプトは「安心を手元に」とした。単体でも、貴重品を取り出しやすくリュックや大きい鞆にし

まい、持ち運びが可能なものを考えている。

人が生活するうえで、必需品である貴重品は近くにないと不安にあるものだと考えた。

手元にある安心感を与えると同時に、いつ何時起こるかかわからない災害に備えて準備する大切さも手元にある安心感を与えると同時に、いつ何時起こるかかわからない災害に備えて準備する大切さも含め、本研究を進めている。

4. アイデア展開

第一試作では、長財布と折り畳み財布で大きさに大きく違いがあるため、その点を考慮した試作を行った。

イラストにもある通り、財布は木目を基調とした箱型を使用し、その他の鍵などは巾着に入れて使用することを想定しました。

サイズ感や厚みも問題なく収納でき、サイズが変えられるメリットがある一方で、大きく感じるといった意見も多かった。(図1)

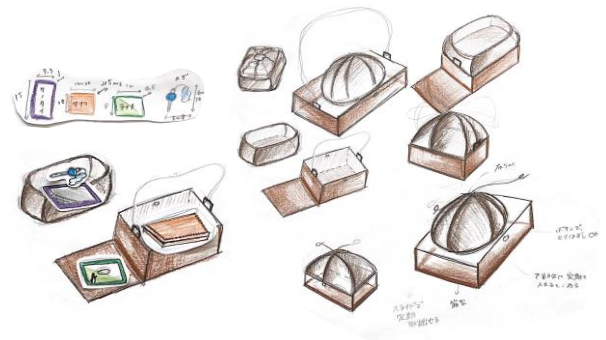




図 1. 第一試作

その後、第二試作では「片手で」をメインにスマホケース型のを考案した。手元にすべて収納することで管理のしやすさ、わかりやすさがあり楽な一方で、貴重品が落ちやすく取り出しづらさがあった。(図 2)



図 2. 第二試作

第三試作では、肩掛けバッグとして利用できるものを考案した。サブバッグへの抵抗がない人は使用することに問題ないと考え。また、キャッシュレスを活かしたものを作ろうと考え、現金は必要最低限にして、鍵や定期は一つにまとめ、スマホはポケットや手で持つことを想定して作った。スマホを首からぶら下げる感覚でこれも身に着けることを想定している。(図 3)

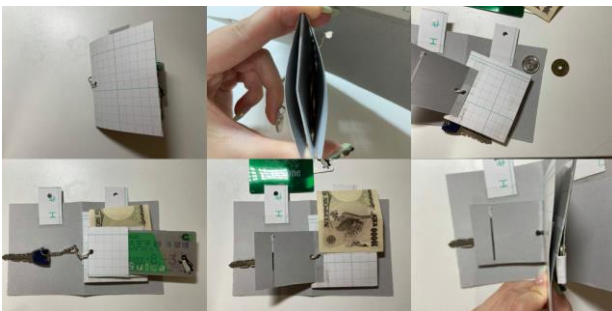


図 3. 第三試作

5. 今後の課題

新しい貴重品の在り方について考え、今現在販売されている製品を知る必要があると考える。

また、ターゲットユーザーの求める形に近づくため、試作と実験を繰り返し、最善の形を作り出す。

現在の試作では、大きさや使いづら点が多いため、形や機能性を重視して取り組む。

6. 参考文献

[1]Google の秘密：PageRank 徹底解説

Root TOYONAKA BAG FACTORY：フラグメントケースの使い方に慣れれば、バッグも心も軽くて快適！

<https://root1887.shop/blogs/library/fragmentcase01new>

閲覧日 2022/09/01

[2]検索 Yahoo!ニュース：トレンドの「マイクロバッグ」みんな気になるその中身をご紹介

<https://news.yahoo.co.jp/articles/04e1e06b832773b892eb64a9df1c90de90d5e660> 閲覧日 2022/09/01